

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野などの自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根には山菜も植えられ、小さなヤマの役割をになっています。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、エソミソハギ、サウギキョウ等が咲きます。ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやカワトンボ等の水生動物が生息しています。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されて、特に馬産が盛んな東北地方では、「牧」と呼ばれる広大な草原がありました。しかし、家畜や草が利用されなくなると草原もなくなり、草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、草刈や放牧で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウ、リンドウなど、50種類ほどの野草を、ボランティアさんが中心となってタネから育てて増やしています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。放牧区ではヤギやヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。



..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)



～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳、雁戸山など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んで雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックラン近くの「ゆいっこ橋」を渡って歩いて行けます。



～体験施設～

自然共生情報館

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った料理やそば打ち体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

TEL 0224-84-5991

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

イタチ・テン

ギャロップした時にできる2個ずつの足跡が特徴です。イタチは小川の近くでよくみられます。テンはイタチより大型です。



アナグマ

小熊のような足跡で、テンのようにギャロップして2個ずつの時もあります。屋間にとぼとぼ歩く姿を見ることがあります。



イノシシ

偶蹄目なので2つ蹄跡が残ります。かかところにある爪の跡が「ハ」の字型につくことが、ヤギやカモシカの違いです。



キジ

矢印のような足跡はどっちに進んだのかな？よく似たサギの足跡には小さな水かきがあります。



今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

ホンドタヌキ

自然共生園では一番見かける足跡で、犬の足跡によく似ています。肩幅があるので、よたよた歩きになります。



ホンドキツネ

キツネの足跡は、直線的で、前足と後足が重なり、おすましに歩きます。ネズミを狙ってジャンプしたような跡も見つかるかもしれません。



ノウサギ

大きな足が特徴です。後足をそろえて着地します。進行方向はどっちかな？最近では冬に白くなるノウサギを見なくなりました。



ネズミ類

小さな両足で跳ねたあとの真ん中に、長いしっぽのあとが残ります。



今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

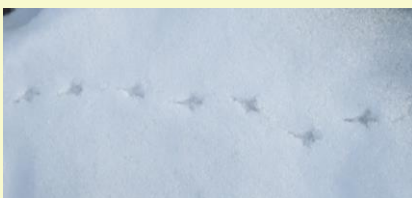
よたよた歩き

よたよた歩きの足あとは、よく見かけるカラスの足跡です。少し急いでいるときは、ぴょんぴょん跳ね、両足がそろいます。



トコトコ歩き

建物近くのトコトコ歩きはセキレイです。



ホッピング

小さくぴょんぴょんと跳ねた足跡は、スズメやマヒワ等です。



カモ類

水かきがあるのですぐにわかります。内またのよたよた歩きです



今日はここを観てみよう！

■赤い冬鳥を探そう

ジョウビタキ（位置 B・C・D 等）

オスはお腹がオレンジ色で顔は黒く、翅の白い紋がよく目立ちます。「カッカッ」と火打ち石を叩くように鳴き、尾を震わせます。あまり人を恐れないので近くで観察できます。



ベニマシコ（位置 A・B・D 等）

夏は北海道などで繁殖し、冬は本州に飛来します。オスは赤くなります。草むら等でタネを食べる様子がみられます。



ウソ（B・C 等）

冬の間は山地から里地に降りてきます。オスは喉のあたりが赤くなります。口笛のような声で鳴き、サクラの蕾を好んで食べます。



今日はここを観てみよう！

■ヤギ・ヒツジ・ウマの歯

ヤギとヒツジは、前歯が下あごにしかありません。上あごには前歯はなく、歯茎だけです。下前歯と上あごの硬くて平らな歯茎をまな板のようにして、草をちぎり取ります。奥歯は上下ともあり、噛みきった草を奥歯ですりつぶして食べます。

仔羊の前歯は8本の小さな乳歯がでてきますが、年に2本ずつ永久歯に生え代わり、4歳ですべて永久歯になります。



ウマには大きな上下の前歯があり、草をムシャムシャ噛み切って食べます。前歯の奥には歯のない空間があり、さらにその奥に食べた草をすりつぶす臼歯があります。歯のない空間に、ハミと呼ばれる金属製の馬具を装着し、それに手綱をつけて馬をコントロールします。ミニチュアホースのトチ君は、人は乗らないので、ハミはつけずに、散歩のときなどにホルターを付けます。トチ君は喜怒哀楽の感情表現がとても豊かです。下の写真は、納得いかないことを叱られて、何とか了解しようと苦悩しているときに歯を見せた表情です。よく観察して馬の気持ちを察してみてください。



てくてくマップ

自然共生園

1月・2月

